

短歌・相川俳句・金光さん

千代生家 もみじ茶会公募で優秀賞



岩国出身の作家・宇野千代の文学作品顕彰活動を行っている「宇野千代顕彰会」(島津教恵会長)は16日、昨年11月26日に岩国市川西の宇野千代生家で行った「宇野千代生誕百二十六年もみじ茶会」の関連イベントとして公募した短歌、俳句の表彰式を行った。

短歌と俳句作品の公募は2回目。市内外から短歌は17首、俳句は45句、計62作品の応募があり、短歌は岩国短歌協会の二宮信子会長、俳句は顕彰会の会長でもある岩国俳句協会の島津会長が選者となって最高賞となる優秀賞各1作、入選各5作を選び出した。



短歌で優秀賞となったのは相川美津江さん。作品は「二宮会長から表彰を受ける短歌の部優秀賞の相川美津江さん(左)」

「くるり舞い紅葉の種は部屋内に宇野千代の庭強き風吹く。」
俳句で優秀賞となったのは金光清美さん。作品は「仏頭へ紅葉散り初む千代茶会 だった。」

表彰式に臨んだ受賞者を前に島津会長は、応募に感謝し、お茶会のひとつを詠んだ句の完成度の高さを称えた。二宮会長は「どれも良い作品ばかり」と応募

句の出来栄えをほめた。優勝作品については「くるり舞いに臨場感があふれ、心地良い」と評価し、「いい歌材、いい場面をとらえられている。舞いと風吹くで一首に動きが出ている。種が飛んで、それから…と想像力をかきたてるが、種は鉢に埋められて木になっているとお聞きして安堵しました」とした。

受賞の相川さんは「20年間、宇野千代生家でボランティアをやっています。とても良い歌の材料がたくさんあって、うまく作歌したのでうれしく思います」と話した。

島津会長から表彰を受ける短歌の部優秀賞の金光清美さん(左)

喜びを語り、「鉢に植えた紅葉の種は植木として生家で販売していますが、売れるときはお嫁に出す気持ち」と話した。

島津会長は、俳句の優秀賞作について、「当日の情景をあますところなく、詠み、そのにぎわいの中、散り始めた紅葉にほのかな哀しみを感じておられるのがいいなと思いました」と講評した。

受賞の金光さんは「お茶会ではたくさんの方が生家の庭に来られていた。その中で、足元に仏頭が置いてあるのを見かけて句にしました」と話した。

入選作品と作者は次の通り。(敬称略)

《短歌の部》

- ・紅葉のライトアップは今消され空にのこれるスーパームーン 正木紀子
- ・百本もよくぞ植えたりもみじ葉の色がす庭や千代のもてなし 藤井淳史
- ・千代もみじ重なりあいしその先のハートの型の秋天 仰ぐ 蔵重敏恵
- ・紅葉葉は朝光反し濃く薄く宇野千代生家の庭にちり敷く 金光紀代子
- ・口々に「もみじ最高」笑みこぼれ見送る吾は駐車場の係 安達敏雄

《俳句の部》

- ・縁側に千代御座すや庭小



春 正木紀子
・手に受くる紅葉落葉に日の温み 松本英子
・紅葉の極まるもみじ茶会かな 波羅栄子
・幾重にも染つたもみじ風

にゆれ 轉廣子
・お運びの裾のさばきに紅葉散り 川野艶子
……
選者と共に短歌・俳句の優秀賞、入選の皆さん